中部の未来創造大賞とは？

これからの「地域づくり」は、社会資本の整備だけでなく、その維持・活用や環境保全、その地域の持つ歴史と伝統への配慮などを総合的に考え推進していくことが不可欠です。また、平成20年に閣議決定された国土形成計画（全体計画）では「新たな公」を基軸とする地域づくりの視点が盛り込まれています。「中部の未来創造大賞」では、このような観点から、民間、行政の垣根を越えた幅広い分野で取り組まれているみなさま方の活動を募り、表彰し、広く一般に紹介することによって、これからの新しい中部の「地域づくり」に役立てていきたいと考えています。

●第1～12回（平成12～23年度）の主な受賞活動

住民部門

二百万本の彼岸花と四季の花々で童話の里を彩る環境美化活動
矢勝川の環境を守る会

相生山緑地 オアシスの森くらぶ
相生山緑地オアシスの森くらぶ

熊野古道始神峠の整備・保存活動
始神峠を守る会

白馬山麓における積雪期の事故防止活動
特定非営利活動法人 ACT

“いい地域は いい学校から” “いい学校は いい地域から” ～小学校を拠点とした地域づくり～
石榑の里コミュニティ

企業・学校部門

守ろう。ふるさとの水門川& 地域ぐるみの親子早朝清掃
大垣市立興文小学校

2020年笠原の森 プロジェクト
多治見市立笠原中学校

“夢を大地に” アクションプログラム
静岡県立磐田農業高等学校

輝け、サンセット（夕日が美しい丘）ナンバー1
阿南町立阿南第二中学校

富士山高原の酪農を元気にする高校生の挑戦
静岡県立富岳館高等学校

行政部門

わしら自慢の公園じゃ まぁいっぺん見にきておくれ ～働く元気高齢者
藤原町役場

里山に生きる 牧田保育園
上石津町役場

うだつの上がる町並みを生かしたまちづくり
美濃市建設部都市整備課

三島市街中がせせらぎ事業
静岡県三島市

八穂環境学習教室
海部地区環境事務組合 八穂クリーンセンター

FUTURE CREATION 2012
中部の未来創造大賞
主催／中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞推進協議会事務局
国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課 ―― TEL(052)953-8127
社団法人 中部建設協会 業務部 ―― TEL(052)962-9086
mirai@ckk.or.jp

中部の未来創造大賞については右記のホームページをご覧ください。 ▶▶▶ **http://www.cbr.mlit.go.jp/mirai/**

●この冊子は再生紙を使用しています。

第13回 中部の未来創造大賞

FUTURE CREATION 2012

みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

中部の未来創造大賞推進協議会

FUTURE CREATION 2012

第13回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、
新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進しようとするものです。
第13回目にあたる今回は、3部門で46件の応募をいただきました。
表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件が選考されました。
本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。
今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■募集部門

住民部門
個人やNPOなどの民間団体など、一般住民からの応募を対象

企業・学校部門
企業、学校、公益法人などからの応募を対象

行政部門
行政機関（国及び地方公共団体、公団・公社を含む）からの応募を対象

大賞

地域を守る中学生
～自分たちの町は自分たちで守る～

あおぞら教室等支援事業

子供防災サミット

自分たちの手で
津波からの避難場所を確保

下水汚泥から創エネルギー!
浄化センターで環境にやさしい
燃料製造

ソーシャルマーケティングによる
「海のまち」の地域づくり

CONTENTS

第13回「中部の未来創造大賞」について……1

大賞

[企業・学校部門]……3
地域を守る中学生
～自分たちの町は自分たちで守る～

優秀賞

[住民部門]……5
あおぞら教室等支援事業

[住民部門]……6
ソーシャルマーケティングによる
「海のまち」の地域づくり

[住民部門]……7
自分たちの手で津波からの避難場所を確保

中部経済連合会賞

[行政部門]……8
下水汚泥から創エネルギー!
浄化センターで環境にやさしい燃料製造

中日新聞社賞

[住民部門]……9
子供防災サミット

選考を終えて（表彰委員より）……10
第1回～12回の主な受賞活動……11

地域を守る中学生
～自分たちの町は自分たちで守る～

大賞

企業・学校部門

岐阜市立三輪中学校

〒501−2535　岐阜県岐阜市石原1丁目12番地
TEL 058−229−1101
URL http://cms.gifu-gif.ed.jp/miwa-j/

岐阜市は過去に幾度となく水害に見舞われており、三輪地区でも平成16年の台風23号により大きな被害を受けました。これを契機として、平成18年から総合的な学習の一環で、身近な地域の方々と交流を持つ活動のひとつとして「水防団活動」に取り組んでいます。

この取り組みは、生徒が水防訓練など水防団の指導を受けながら共に活動することで、水防の重要性はもとより、自らの手で地域を守ることの大切さを体験の中で学ぶことを目的としています。「水防団活動」は、生徒自身の自発的な参加で成り立っており、水防の大切さを学ぶために、水防団からの話を聞くだけでなく、整列の仕方、土のうの作り方、水防工法の訓練など、実際に水防団と同じ活動を生徒自らが体験しています。

具体的な活動内容として、岐阜市内の全水防団が集結する「岐阜市水防連合演習」に平成19年度から5年連続で参加するとともに、24年度には、「木曽三川連合水防演習・複合型災害防災実動訓練」にも参加しました。

当初の水防活動は、水防団のお手伝い範囲の活動でしたが、3年前からは、中学生自ら積み土のう工を作り上げるまでに至り「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識をもって、水防団と同じように、活動をしています。

その成果として、川と共に生きる地域で水害の記憶を風化させないようするとともに、洪水時における水防活動への参加など災害に対する生徒の意識向上を促すことでき、水防活動の大切さを自ら学ぶとともに、地域住民などに対する啓発普及に多大な貢献をしています。

作成した土のうを運ぶ

H23岐阜市水防連合演習　しおり結びで土のうを作成

積み上げた土のうを「たこ」で固める

積み上げた土のうに杭を打つ

岐阜県知事からの感謝状贈呈

あおぞら教室等支援事業

優秀賞

住民部門

「水と街道」東濃会

〒508−0015　岐阜県中津川市手賀野709−55
TEL 0573−66−6385

中津川の中央を流れる四ツ目川では、昭和7年に大水害が発生しました。現在はずいぶん整備が進みましたが、周辺には竹林が繁殖しており、水害の再発を防ぐ為に竹林の伐採を行っています。伐採した竹は竹炭にして防災に協力してくれる方々に贈呈しています。また、防災のための勉強会や植樹の指導も行っており、市内の小学生や幼稚園児に植樹をして頂き、自然環境の保全に努めています。

このような活動を通して地域との連携を深めるとともに、姉妹都市である名古屋市との友好を深めることを目的として活動しています。具体的な活動内容は以下の通りです。

- 四ツ目川災害の再発を防止する為、流域に繁殖する竹林を伐採して竹炭を生産し、植樹をしてくれた小学校に寄贈している
- 姉妹都市の名古屋市の親子に植樹や災害の勉強をして頂き両市の友好を深めている
- 地域の親子を招き竹炭焼きの勉強を行っている
- 国土交通省の主催する市内の小学生を対象の「あおぞら教室」を応援している

幼稚園児青空教室（植樹）

親子竹炭体験教室

ソーシャルマーケティングによる「海のまち」の地域づくり

優秀賞

住民部門

特定非営利活動法人 楽笑

〒443−0021　愛知県蒲郡市三谷町魚町通12番地1
TEL 0533−69−1169
URL http://www.rakusho.info

愛知県蒲郡市三谷町は三谷漁港という港があり、産業の中心を担っていましたが、漁獲量の減少とともに水産業を営む人口も減少していきました。そのような中、水産加工業を営む団塊世代が定年退職を迎えるにあたり、福祉サービスの場で働きたいという声が上がり、その雇用を生むための地場産業の活性化がニーズとしてあがりました。そこで、障害のある方と地域の方の就労場所の確保という福祉のニーズと、地場産業の活性化という地域のニーズをマッチングし企業や団体、教育機関など多様な主体が協働で、海のまちコミュニティーの永続を考え、次代へ残る地域づくりを目的として活動しています。具体的な活動内容は以下の通りです。

・酒菜屋十兵衛の運営
・夏休み子ども干物体験教室の企画・運営・開催
・ギョギョウランドの企画・運営・開催
・観光イベント・みなとオアシス参加

干物屋

団塊退職者と障害者の雇用

自分たちの手で津波からの避難場所を確保

優秀賞

住民部門

相賀自主防災会

〒519−3492　三重県北牟婁郡紀北町海山区相賀495−8
TEL 0597−32−3904

当地方は日本有数の多雨地帯であり、台風も頻繁に接近・上陸し、また南海トラフ沖の大地震及びそれに伴う大津波の来襲が危惧されています。様々な災害から地域住民を守るため、平成14年相賀自主防災会を結成し、相賀自治会とともに、防災訓練・資機材整備をはじめ様々な活動をおこない、「顔見知りの、隣近所で、助け合う防災」を合言葉に、地域住民の防災意識の高揚・防災力の向上を目指して活動しています。

平成23年には、東日本大震災を目の当たりにして地域住民の防災意識が非常に高まり、一刻もはやく整備する必要を感じ、また自分達の地域は自分達で守るという意識を高めるためにも、従来、行政に要望し整備を行ってもらうことが一般的だった、避難路の整備を、地権者、地元建設業者等の協力を得ながら自ら行いました。（作業人員のべ300人）また、完成した避難路・避難場所に津波から逃げるための避難訓練を実施し、地域住民の半数に及ぶ650人もの参加者を動員し、津波からの避難場所・避難経路を十分認識してもらいました。

地区住民の手で避難路整備（愛宕山避難路）

避難訓練（新町公園地避難路）

下水汚泥から創エネルギー！浄化センターで環境にやさしい燃料製造

中部経済連合会賞

行政部門

愛知県建設部下水道課

〒460−8501　愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL 052−954−6535
URL http://www.pref.aichi.jp/gesuido/

衣浦東部浄化センター（愛知県碧南市）では、発生する下水汚泥を場外へ搬出しセメント原料利用等を行っていましたが、下水道の普及拡大に伴い年々増加する汚泥に対応していく必要がありました。

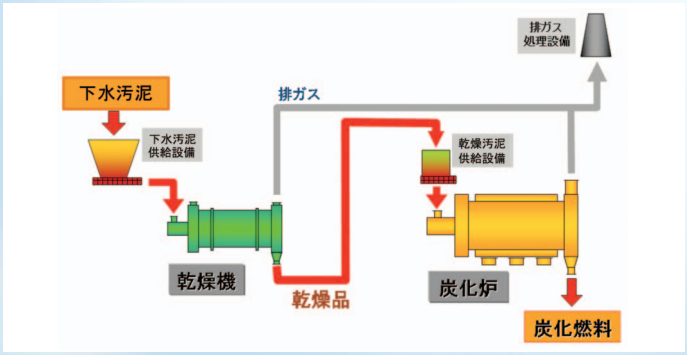
この浄化センターでは、下水汚泥が燃料としても使用可能な有機物を含むバイオマスであることと、中部電力㈱の碧南火力発電所に隣接した地域であることの特性を活かして、循環型社会づくりの実現に貢献するため、汚泥を燃料化し石炭代替燃料として使用することを目的に取り組んできました。

その結果、本年度4月より浄化センター内において下水汚泥から製造した炭化燃料について、碧南火力発電所で発電用燃料として利用が開始されました。

この施設は一年間に33,000tの汚泥から2,700tの炭化燃料が製造出来ます。発電用燃料として用いることで、標準家庭約1,270世帯分の年間電力がまかなえます。また、この際の温室効果ガス削減効果は、一般的に行われる焼却炉での処分と比べ標準家庭約1,500世帯の年間排出量に相当します。

炭化燃料

衣浦東部浄化センター全体図



汚泥燃料化施設の処理工程

施設見学会

子供防災サミット

中日新聞社賞

住民部門

特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿

〒510−0254　三重県鈴鹿市寺家3−33−33
TEL 059−386−2400

将来、地域や行政の防災対策の主力となる子供達が、防災教育プログラムにより災害を体験し、お互いの年齢や経験値の差をサポートしながら学ぶ中で、災害への備えを考え、防災意識を高め、子供たち自身が自分を守る災害対応力を身に付けることを目的として活動しています。また、地元の三重大学や鈴鹿医療科学大学と連携して「大学生」に学習の補助や訓練の安全をサポートしてもらい、子供たちとの交流を通して意識の向上を図っています。具体的な活動内容は以下の通りです。

- 小型小電力無線機の使い方を学び、災害時の通信方法を体験する。
- 三重県消防学校の施設を使い、ロープ渡りや消火訓練などを体験する。
- 地震・台風・風水害になどの発生のしくみを防災講座で学ぶ。
- DIG、ストローハウス、タウンウォチング、活断層実験など体験し自ら防災について考える。
- 集団生活をする中で、避難所体験をし、非常食の試食で被災体験をする。
- 地域や小中学校における防災啓発活動

地震体験車

ロープわたり訓練

選考を終えて（表彰委員より）

委員長

名古屋工業大学名誉教授・プロジェクト教授

山本　幸司　やまもと　こうし

過去2年間よりも応募件数が増えたことに感謝申し上げたい。今回は自然災害への防災・減災に関する住民活動が多かったことが特徴といえる。厳正な審査結果として顕彰の栄を受けられた6団体を含め、応募頂いた各団体の日頃の熱心な活動に心より感謝いたします。

副委員長

三重大学名誉教授

渡邉　悌爾　わたなべ　ていじ

今回は、防災関係で持続的にすぐれた取組が目立った。中でも過去の大水害の経験を語り継ぐ中で、自主的な活動に取り組む中学校の事例は特筆される。今後とも、創造的な人材育成が地域で連携して進むことを期待したい。

委員

駿府静岡歴史楽会事務局代表

竹内　礼子　たけうち　れいこ

現地調査で実際の活動に触れてみて、誰が考えても良いことだと思う事でも課題があり、関係各位の協力を得るまでの努力には敬服しました。でも活動を続けてきた実績はこれからの地域の大きな活力になると思います。

委員

中日新聞社事業局長

山口　宏昭　やまぐち　ひろあき

どの地域もその特性を活かした活動で、またなくてはならないものが多かったことに驚きであった。特に東日本大震災を機に自主防災に取り組む活動は中部全域で「地域づくり」にも役立つと期待する。

委員

名古屋大学大学院教授

森川　高行　もりかわ　たかゆき

中部地方においても防災関係の申請が相対的に増えてきた。とくに子供を巻き込んだ事例がいくつか見られ、とても重要なことだと思う。若い彼らが生涯その活動を続け、また次の世代に伝えて行くことを期待したい。

委員

（一社）中部経済連合会常務理事

菅原　章文　すがわら　あきふみ

今回は防災・減災に対する自主的な取組み事例が多く見られ、「自分たちのことは自分たちで守る」という防災意識が各地域に浸透していることを心強く感じました。

各団体の継続的な活動が、より良い地域づくりにつながることを祈念いたします。

委員

中部地方整備局長

梅山　和成　うめやま　かずしげ

今回、応募された活動の特徴として「東日本大震災」を教訓とし、中学生や自主防災会が主体となり地域と密着した「自助」、「共助」の活動による成果を上げているものが数多く見受けられました。

また、他の活動においても小中学生を含め地域住民が一体となった活動が展開されており、将来を担う「若い力」が育っていることに大きな希望がもてました。

中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局
長野県
岐阜県
静岡県
愛知県
三重県
静岡市
浜松市
名古屋市
中日本高速道路株式会社 名古屋支社
名古屋高速道路公社
独立行政法人 水資源機構 中部支社
地方共同法人 日本下水道事業団 東海総合事務所
独立行政法人 都市再生機構 中部支社
公益社団法人 土木学会 中部支部
社団法人 中部建設協会
社団法人 日本建設業連合会 中部支部
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部
社団法人 長野県建設業協会
一般社団法人 岐阜県建設業協会
一般社団法人 静岡県建設業協会
一般社団法人 愛知県建設業協会
一般社団法人 三重県建設業協会
株式会社中日新聞社
後援／一般社団法人 中部経済連合会